

お客さまこんにちは

# 桐生が岡 遊園地・動物園

〒376-0056 群馬県桐生市宮本町  
4丁目1-1 (遊園地) ☎0277-22-7580  
3丁目8-13 (動物園) ☎0277-22-4442



コンパクトに遊器具を配置した遊園地。丘陵地にあるため、観覧車は意外な高さ

## 入場無料の市営施設

群馬県桐生市は、繊維産業とともに発展しました。まちのシンボル、織物工場の「のこぎり屋根」が点在する市街地。それを見おろす丘陵で観覧車が回っています。「アースケア桐生が岡遊園地」です。隣接して「未来へはばたけ 山田製作所桐生が岡動物園」。ともに市営で入場無料です。

## 織物のまちを一望

観覧車は小ぶりなものです。遊園地ある丘陵の標高を加え、頂点はかなりの高さ。市街地を一望できます。丘を下るとすぐに重要



市街地を見おろし走るミニレール(左)とサイクルモノレール。桐生が岡は桜の名所

桐生市スポーツ文化事業団の宮前温子さん。これらの料金は大人200円、小人(中学生以下)100円。ちょっと立ち寄り、家族で楽しんでも懐は痛みません。

このほか、メリーゴーランド、スカイヘリ、アドベンチャーシップ、サイクルモノレールなどの遊器具が同じく格安の料金で楽しめます。

## 世代を超え愛され50年

この秋、ウエーブメルヘンカップ(コーヒーカップ型遊器具)を撤去し、新しい遊器具を導入します。ミニレールは3代目と設備更新を怠っていませんが、園内は何か懐かしい雰囲気。「壁面に描いた案内図など、手づくり、手入れして使い続けているものも多いからでしょうね。ゲームコーナーは特にレトロ感がありますよ」と宮前さん。幼児向けの固定乗り物は1回20円! 中高年世代が興奮するゲーム機などが今も現役です。

大々的な祝賀行事は見送りましたが、昨年50周年を迎えました。自らも「子どものころお世話になった」という宮前さんが、エピソードを紹介してくれました。「おばあちゃんが仏壇にでも仕舞ってあったのでしょうか。すごく昔のチケットを持ってくるお孫さん。3世代、い



ライオンなど人気の動物を飼育(左)、吊り橋で遊ぶレッサーパンダ



え4世代にわたって愛されている遊園地だと思います。

## 頭上を歩くレッサーパンダ

改札のない門をくぐって、市が直営する動物園へ。遊園地より約20年先に当地で開園しました。地方の公立動物園と侮ってはいけません。飼育する動物は100種類以上、



遊園地園長小林洋治さん(左) 運営担当宮前温子さん

ライオンをはじめ、つがいで飼育する動物の繁殖実績は豊富。ライオンの獣舎は距離がけっこう近く、百獣の王の迫力が十分に感じられます。国内の飼育頭数が減っているキリンもつがいで見られます。

今春、市制100周年事業としてレッサーパンダがやってきました。「公立の、無料で見られる動物園としては県内唯一」と動物園長の丹羽泰史さん。半世紀余りにわたって来園者に愛されたアジアゾウが推定62歳で死んだ後、新たなアイドルとして期待されています。

他園の設備を参考にしたという獣舎は、最新の行動展示です。柵を使わず、アクリル板やガラスを通して愛くるしい姿が見られ、手が届きそうな距離にある頭上の吊り橋を、レッサーパンダが渡っていきます。



動物園長丹羽泰史さん

ところで、最近の悩みはやはりエネルギーや飼料の高騰。6月までの電気料金は約30%も上昇。丹羽園長は「もともと減らすのは難しいですから…」と、暖房費用がかかる冬を思い、頭を痛めています。

## チームで安全を保つ

遊園地は様々な集客イベントのほか、ダンスサークルの発表会など、地域の活動に場所を提供しています。当協会の「電気安全出張相談所」にもご協力いただいています。

遊園地園長の小林洋治さんから「遊器具は電気で動き、その安全確保で保安協会さんに貢献いただいています。私たちは一つのチーム。これからも一緒にお客さまが楽しく、安全に過ごせるように、協力しましょう」と温かい言葉をいただきました。



アドベンチャーシップ(左)、レトロ感たっぷりの固定乗り物

